

地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会
令和3年度 第2回情報共有会合議事概要

1. 日時：令和3年10月5日(火) 14:00～15:30

2. 会議形式：ウェブ会議システムによるオンライン開催

3. 参加者 31名

北海道大学（1名）、酪農学園大学（2名）、北海道開発局（4名）、北海道運輸局（1名）、第一管区海上保安本部（1名）、北海道庁（6名）、北海道エネルギー・環境・地質研究所（1名）、江別市（2名）、石狩市（1名）、日本測量協会北海道支部（2名）、Digital北海道研究会（2名）、北海道産学官研究フォーラム（1名）、北海道G空間情報技術研究会（1名）、日本写真測量学会北海道支部（1名）、スペーシャリストの会（1名）、北海道オープンデータ推進協議会（1名）、国土地理院（3名）

4. 議事

① 挨拶（北海道地方測量部長）

② 話題提供

1) 3D都市モデルが実現する未来 一国土交通省3D都市モデル整備・活用・オープンデータ化プロジェクトについて（国土交通省都市局都市政策課（併）都市計画課 課長補佐 内山裕弥様）

2) 3D都市モデルによる都市の情報基盤化と活用（駒澤大学文学部地理学科准教授 瀬戸寿一様）

③ 意見交換

④ その他報告事項

5. 議事概要

国土交通本省都市局の内山様から「札幌駅前通地下広場（チ・カ・ホ）等における人流データの可視化」「狸小路商店街におけるAR観光ガイド」等のユースケースの紹介などプロジェクト PLATEAU の概要と今後の展開について話題を御提供いただいた。

学部門の参加者から「当該データの出現にはショックを覚えた。今後の活用に期待」といった御意見をいただいたほか、データの更新頻度や更新方法等に関する質問があった。また、官部門の参加者からはデータ属性情報や国土地理院との連携計画の有無に関する質問や、自治体主体によるデータ更新の実現性に関する質問があった。

駒澤大学文学部の瀬戸様からは、「参加型データ社会（データ活用の場の形成）」「“統合型GIS”から“横断型地図”へ」といった観点から、海外での参加型まちづくりの事例や静岡県熱海市災害における事例紹介などの話題を御提供いただいた。

話題提供に続き、参加者による意見交換を行い「静岡県事例にもあったが発災時に誰もが（オリジナルデータ等を）利用できる環境（既存の共通プラットフォーム）が重要。関係者協力の下、道内における3次元点群データの充実を希望する」（官部門の参加者）、「大学で様々なデータを扱えるオープンデータサイトを準備中。活用促進に向けて横のつながりを願います」（学部門の参加者）といった意見があり参加者間で共有した。

その他、現在計画中の「GIS Day in 北海道」のオンライン開催について、詳細が決まり次第事務局を通じて関係者に御案内する旨の報告があった。

次回の情報共有会合について、年度最後の開催とすることを確認した（開催日時は後日調整）。